

2022年5月実績概要（メモ）

（2022. 6. 20）

定修の減少により、生産面での復調が見られるが、製品によってはその足取りに差があり。

1. 生産動向

イ) エチレン 461,600トン

前月比 +16.4% (+64,900トン)
 前年同月比 ▲12.4% (▲65,400トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3%	-
定修要因等	+ 19.5%	▲ 5.8%
能力増減	-	-
稼働率変動	▲ 6.4%	▲ 6.6%
生産増減率	+ 16.4%	▲ 12.4%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月91.8%* → 当月87.6% ← 前年同月93.5%
 定修プラント：前月3社3プラント → 当月2社2プラント ← 前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増加とともに稼働率要因や定修規模の減少から、LDPE、HDPE、PS、SM、SBR、BR、トルエンなど10品目がプラス。塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、ベンゼン、キシレンなどの7品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模差と稼働率要因等からPP、SM、MMAモノマー、EO、EG、SBRなどの11品目がマイナス。PS、塩ビモノマー、ANなどの6品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数増や稼働率要因を主因として、LDPE、HDPE、PP、PSでプラスとなった。

前年比は、LDPE、HDPEは稼働率要因等から微減、PPは定修規模の増加と稼働率要因からマイナスとなった。PSは主に稼働率要因からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

3年ぶりに行動制限がなくなった大型連休中の人流も増加し、5月の消費動向の下げ止まり感が出たことや、国内産業の生産計画では業種毎で差があるが、上昇の方向に向きつつある。樹脂の出荷は、前月比は、連休に伴うユーザー側の稼働日数の減少や原料情勢の変化も加わり、LDPE、HDPE、PPでマイナスとなった。

前年比でもポリオレフィン3樹脂はマイナス。PSだけはプラスとなった。

分野別の出荷動向では、全般的に前年の出荷を下回り、LDPEの加工紙分野、HDPEの射出成形分野、PPの押出成形分野等が前年を上回るにとどまった。PSは、前月と同様に、電機・工業分野ではマイナスが続くも、主用途の包装分野をはじめ雑貨・産業用、FS分野の出荷が前年を上回ることであった。

ハ) 輸出

前月比は、主要輸出先である中国のロックダウン影響に伴う需要減や北東アジアでの製品市況も改善が見られず、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

前年比でも、LDPE、HDPE、PP、PSでマイナスとなり、3月以降減少が続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対してLDPE、HDPE、PP、PSで増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PPで上昇、PSは横ばいとなった。在庫水準としては、LDPE、PP、PSはほぼ適正、HDPEはやや高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		4月末	5月末
LDPE	+30,800	2.9	3.2
HDPE	+3,400	2.9	3.3
P P	+9,200	2.9	3.0
P S	+5,200	1.8	1.8

前月からの修正を*で付記
以上